

第10回 中学校給食推進会議 会議録

- 開催日時 平成28年10月11日(火)
9:35~10:00
- 場 所 川崎市役所第3庁舎 18階 大会議室
- 出席者 委員
福田市長
菊地副市長 伊藤副市長
大村財政局長 渡邊教育長 西教育次長
(代)北総務企画局都市政策部長
(代)草野経済労働局産業振興部長
(代)佐藤健康福祉局理事・地域包括ケア推進室長
(代)内野まちづくり局施設整備部長
※(代)は代理出席
所管局(教育委員会事務局中学校給食推進室)
石井室長 森担当課長 田中担当課長 古俣担当課長
北村担当課長 阿部担当課長

■内容(進行 市長)

—市長挨拶—

- ・来年1月には4校で完全給食が始まるのを皮切りに、同年12月には全52校で完全給食が始まる。来年はまさに中学校給食元年とも言える。
- ・基本方針が決まってからわずか3年。各局で連携をうまくやって、他都市では例をみないスピード感を持ってやってきた。関係局の皆さんには心から感謝と敬意を申し上げたい。
- ・かねてより申し上げているが、中学校給食において川崎市は後発組なので、どうやって付加価値をつけていくかということを検討してきた。今日は付加価値という意味での、川崎市の中学校給食が何を指すのかを確認したい。川崎の中学校給食は「健康給食」をやるんだということコンセプトとしてさらに煮詰めて行きたい。
- ・ハード整備のほうもスケジュールどおり進んでいるかと思うが、スケジュール感も確認をさせてもらいたい。

—資料説明—

(主な質問・意見等)

草野経済労働局長代理

- ・資料3で地産地消とあるが、全校分を賄うほど市内の生産物が無い。市内産を検討してもらえらるなら、自校献立等であれば対応できると思うがどうか。

事務局（田中担当課長）

- ・中学校給食のセンター給食では基本的に自校献立はないが、経済労働局、JAと協議を進めており、なるべく市内産のものを使用できるように今後検討していければと思っている。

市長

- ・全校はできなかつたとしても、給食センターごとにやる形でできるものがあれば。

菊地副市長

- ・なかなかこの業者も数がそろわないというか、食数が半端ではない。食べさせてあげたいが。

草野経済労働局長代理

- ・農家の方々も学校に食べてもらいたいという思いはある。

菊地副市長

- ・逆にこういうことで作っていただけるということもできるのではないかと。JAと協議しているとのことなので、経済労働局もよろしくお願ひしたい。

市長

- ・冒頭の繰り返しになるが、中学校給食の目指す姿について、教科・特別活動を通じて、食育を常時行い、食べて健康になる、野菜も全国平均に比べると10%以上高い。米飯給食90%以上についてはかなりレベルが高い。
- ・食器（飯椀）のデザインのラインについては、全国で初めてか。

事務局（田中担当課長）

- ・全部の食器を見たわけではないが、我々としては見たことが無い。

市長

- ・これは非常に面白い。事務局が考えてくれたが、「食育ライン」という二本のラインを引いて、上のラインが250g、ちょうどいいという意味で「ちょうどいい線」、下のラインは食が細くてもここまでは食べて欲しい下限を決めた「残しま線」。
- ・駄洒落の効いた「食育ライン」というものを設けて、日々の給食の喫食の中で、先ほど課題にあった肥満や痩せの問題等に、しっかり取り組めるような健康給食にしようと、ソフトとハードを整えていかなくてはいけない。

菊地副市長

- ・名前が「健康給食」とうことなので、3食のうち1食は給食、あと2食は家庭である。そういう意味では、特に肥満の子どもがいる家庭などへの啓発も大事だと思う。給食だけで改善することは難しい。朝と夜とカロリーのしっかりしたものを食べさせる。各学校の保護者への指導も入れていく。そうすると3食バランスよくなると思う。

市長

- ・PTAは今回の中学校給食の検討の初期の段階から関わってもらっている。食育は、給食だけで行うものではなく、家庭で進めていくことも大事。